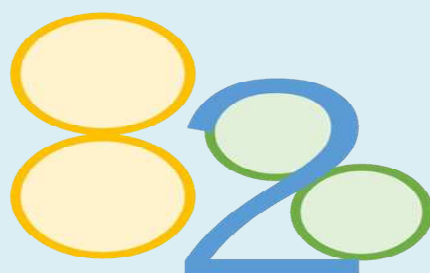


令和4年度  
県民歯科疾患  
実態調査報告書



佐賀県  
健康福祉政策課



## 目 次

I 調査の概要	・・・ 1
II 調査結果	
1. 被調査者数	・・・ 6
2. 歯の状況	
(1) むし歯	・・・ 7
(2) 喪失歯	・・・ 9
(3) 現在歯( 8020達成者など )	・・・ 10
(4) その他の歯の状況	
ア 1人平均健全歯数	・・・ 11
イ 1人平均処置歯数	・・・ 11
ウ 1人平均未処置歯数	・・・ 12
3. 歯肉の状況	・・・ 13
4. 歯をみがく頻度	・・・ 15
5. 歯や口の状態	・・・ 16
6. 歯や口の清掃状況	・・・ 17
7. 歯石の付着	・・・ 19
8. 口腔清掃状態	・・・ 20
9. その他の所見	・・・ 21
10. 算出方法	・・・ 22



# I 調査の概要



## I 調査の概要

県民歯科実態調査は、平成元年度に第1回の調査を行い、今回で7回目の調査となる。原則歯科疾患実態調査（厚生労働省）の実施年度に行っている。

本書では、前回（平成28年度）の調査結果についても必要に応じて示すこととした。

### 1 調査目的

県民の歯科疾患の実態を把握し、今後の歯科保健医療対策の推進に必要な基礎資料を得ることを目的とする。

また、本調査により「第3次佐賀県歯科保健計画（ヘルシースマイル佐賀21）」の歯科保健指標の把握を行うものとする。

### 2 調査対象

佐賀県歯科医師会の地区割をもとに、人口に応じて、調査を行う歯科医療機関数を割り出し、地区の中から無作為で選定された20歯科医療機関を調査日と設定した任意の日に受診した満20歳以上の500名（各歯科医療機関25名）を調査対象とする。

### 3 調査期日

令和4年11月上旬のうちの任意の1日。1日で25名調査不可能だった場合、25名となるまで調査日から起算し、最大3日間まで調査を継続する。

### 4 主な調査事項

- (1) 現在歯の状況
- (2) 喪失歯および補綴状況
- (3) 歯周組織の状況
- (4) 口腔清掃の状況
- (5) 自覚症状など

### 5 調査方法

- (1) 調査は、佐賀県健康福祉部健康福祉政策課（以下「県」という。）が佐賀県歯科医師会に委託し歯科医療機関で実施する。口腔清掃の状況、自覚症状等については質問による方法とし、口腔の状態については、歯科医師による口腔診査とする。
- (2) 調査の具体的な実施方法等については、事前に調査実施歯科医療機関関係者間で、十分な打合せを行い、本調査を円滑に実施できるように努める。
- (3) 被調査者に対して、調査の趣旨等(目的、内容等)を説明し、同意を得て行い、調査に対する協力体制の確保に配慮する。

### 6 調査の実施

本調査は、次の事項からなっている。

- (1) 被調査者に質問して記入する事項
- (2) 口腔診査を実施して、その結果を記入する事項
  - 調査の実施にあたっては、次の点に留意すること。
    - ア 診査に用いる器具材料等は清潔に取り扱う。
    - イ 診査にあたっては、一時的な混雑で性急に診査がされることのないよう注意する。
    - ウ 歯に付着物が存在し診査が困難と考えられる時は、歯の清掃をするなどしたうえで診査する。また、義歯装着者については、義歯を外してから口腔診査を行う。
    - エ 可撤性補綴物の鉤歯や隣接歯に発生したう蝕は、見落としやすいので注意すること。また、これらの場合は、補綴物を離脱させて残根の有無など十分に注意して診査する。
    - オ インプラントは、見落としやすいので問診を併せて行うなど、十分に注意して診

査する。

## 7 診査基準

本調査は、次に掲げる基準に従って診査した。

### (1) 現在歯の状況

現在歯は、ア．健全歯 イ．未処置歯 ウ．処置歯の3種に分類する。現在歯とは、歯の全部または一部が口腔に現れているものをいう。

過剰歯は含めないこととし、癒合歯は1歯として取り扱い、その場合の歯種名は上位歯種名をもってこれにあてる。（例：中切歯と側切歯の癒合歯は中切歯とする。）

#### ア 健全歯

健全歯とは、う蝕あるいは歯科的処置の認められないもの（以下に記す未処置歯及び処置歯の項に該当しないもの）をいう。

咬耗、摩耗、着色、斑状歯、外傷、酸蝕症、発育不全、歯周炎、形態異常、エナメル質形成不全等の歯であっても、それらにう蝕のないものは健全歯とする。

（注）歯質の変化がなく、単に小窩裂溝の内容物だけが黒褐色に着色しているもの、平滑面で表面的に淡褐色の着色を認めるが歯質は透明で滑沢なもの、エナメル質形成不全と考えられるものなどは、すべて健全歯とする。

#### イ 未処置歯

未処置歯とは、う蝕があるのに歯科的処置の認められないものをいう。また、治療が完了していない歯、並びに処置歯であっても2次的う蝕及び他の部分にう蝕が発生している場合は、いずれも未処置歯とする。

#### ウ 処置歯

処置歯とは、歯の一部または全部に充填、クラウン等を施しているものをいう。

歯周炎の固定装置、矯正装置、矯正後の保定装置、保隙装置および骨折副木装置は含まれない。

治療が完了していない歯、二次的う蝕や他の歯面で未処置う蝕が認められた処置歯は未処置歯として取り扱う。

予防填塞（フィッシャーシーラント）の施してある歯については、可能な限り問診して、う蝕のない歯に填塞したものは健全歯とするが、明らかにう蝕のあった歯に填塞を施したものは処置歯とする。

架工義歯の支台歯であっても、一部修復や歯冠のすべてを修復しているものは、処置歯に含める。

### (2) 喪失歯及び補綴の状況

喪失歯は、ア．要補綴歯 イ．欠損補綴歯に分類する。喪失歯とは、抜去または脱落により喪失した歯をいう。ただし、智歯は含めない。

また、先天的欠如または何らかの理由で歯を喪失したことが明かであっても、歯列等の関係から補綴処置の必要性が認められないものについては、喪失歯に含まない。

#### ア 要補綴歯

要補綴歯とは、喪失歯のうち義歯等による欠損補綴処置が必要と判断できるものをいう。

#### イ 欠損補綴歯

欠損補綴歯とは、喪失歯のうち義歯、ブリッジ、インプラントなどによる補綴処置が施されているものをいう。ただし、一部破損していたり、欠損部の状況と著しく異なる義歯は装着していないものとする。

### (3) 歯周組織の状況

#### ア 歯周ポケット

7	6	1	6	7
7	6	1	6	7



の各歯の歯肉の状況(20歳未満の場合、第2大臼歯を除外)をWHOのCPI (Community Periodontal Index, 地域歯周疾患指数)により、歯周プローブ(図1)を用いて、上顎、下顎とも頬・唇側面(近・遠心)および舌側面(近・遠心)の4点について以下の基準で診査し、歯周ポケットの深さについて該当するもの(4未満、4~6、6以上(mm))を判定する。

ただし、同顎、同側の第1、第2大臼歯については、両歯の最高点を記入する。

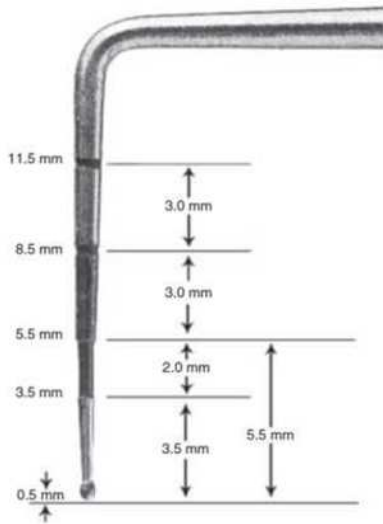


図1 歯周プローブ(参考)

#### イ 歯肉出血

プロービング後10~30秒以内に出血が認められる場合、有を○で囲む。出血を認めない場合は、無を○で囲む。

●対象中切歯の欠損により診査が不能な際は、反対側同名歯を診査する。

両側とも欠損している場合、あるいは臼歯部で2歯とも対象歯が欠損している場合には、検査対象外として「×」を該当する代表歯の欄に記入する。

●プロービングは、歯周プローブ先端の球を歯の表面に沿って滑らせる程度の軽い力(20g)で操作し、遠心の接触点直下から、やさしく上下に動かしながら近心接触点直下まで移動させる。

#### (4) 歯石の付着

付着の程度に合わせて、なし、軽度(点状)あり、中度(帯状)以上ありを選択する。

#### (5) 口腔清掃状態

CPIの診査対象歯について、ほとんど歯垢の存在が認められない状態を「良好」とする。また、1歯以上の歯の歯頸部に歯面1/3を超えて歯垢が認められる場合を「不良」とし、それ以外を「普通」とする。

#### (6) その他の所見

その他の所見とは、粘膜疾患、歯の形態変化および数の異常、顎関節の異常、歯列・咬合不正などとする。

## 8 結果の集計・解析

調査結果の集計・解析は、佐賀県健康福祉政策課が行った。

様式第1号

## 県民歯科疾患実態調査票送付票

( 令和4年 月 日発送)

歯科医院名	担当者名 (連絡先 TEL)	調査票枚数	備考
	(TEL: )	枚	

# 県民歯科疾患実態調査票

歯科医師会地区 \_\_\_\_\_ 調査日 令和4年 月 日

診査歯科医療機関名 \_\_\_\_\_

私は、本調査「県民歯科疾患実態調査」へ協力するに当たり、歯科医より十分な説明を受け、その内容を理解した上で自由意志により、本調査に協力することを同意します。

同意年月日 令和4年 月 日

氏名 \_\_\_\_\_ \*すべての個人情報は、調査以外の目的には使用されません。

性別	1. 男	2. 女	年齢	歳
----	------	------	----	---

**【I 口腔清掃の状況、自覚症状など(質問)】**  
(あてはまるところに○をつけて、( )内には必要な事項を記入してください)

(1) 歯や口の状態について気になることはありますか(複数回答可)

1. ない      2. 歯が痛い、しみる      3. 歯ぐきが痛い、はれている、出血がある      4. 噛めないものがある      5. 飲み込みにくい  
6. 味が分かりにくい      7. 口がかわく      8. 口臭がある      9. その他(具体的に \_\_\_\_\_ )

(2) 歯をみがく頻度はどれくらいですか？(歯が全くない人は除く)

毎日みがく ( 1. 1回      2. 2回      3. 3回以上 )      4. ときどきみがく      5. みがかない

(3) (歯ブラシを用いた歯みがきに加えて、)以下に示す歯や口の掃除をおこなっていますか？(複数回答可)

1. デンタルフロスや歯間ブラシを使って、歯と歯の間を掃除している      2. 舌を掃除している  
3. その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )      4. おこなっていない

**【II 現在歯・喪失歯の状況】**

喪失歯のうち、補綴処置の不要な歯は×を記入

右	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	左		

健全歯 /  
未処置歯 C  
処置歯 ○  
要補綴歯 △  
欠損補綴歯 ⊙

1健全歯数(/)	2未処置歯数(C)	3処置歯数(○)	4現在歯数(1+2+3)	5要補綴歯数(△)	6欠損補綴歯数(⊙)
----------	-----------	----------	--------------	-----------	------------

**【III 歯周組織の状況】**

①歯周ポケット

	7] 又は6]			1]			[6又は[7			
上顎	4未満	4~6	6以上	4未満	4~6	6以上	4未満	4~6	6以上	mm
下顎	4未満	4~6	6以上	4未満	4~6	6以上	4未満	4~6	6以上	mm
	7] 又は6]			[1			[6又は[7			

②歯肉出血

	7] 又は6]		1]		[6又は[7	
上顎	有	無	有	無	有	無
下顎	有	無	有	無	有	無
	7] 又は6]		[1		[6又は[7	

**【VI その他の所見】**

a. 粘膜の疾病      なし・あり  
b. 歯の形態変化および数の異常      なし・あり  
c. 顎関節の異常      なし・あり  
d. 歯列・咬合不正      なし・あり  
e. その他      なし・あり

**【IV 歯石の付着】**  
なし・軽度(点状)あり・中等度(帯状)以上あり

**【V 口腔清掃状態】**  
良好・普通・不良

## Ⅱ 調査結果

### 留意事項

平成28年度調査と令和4年度調査で調査方法、調査対象者選定方法が異なる。そのため、今回調査結果と前回調査結果について厳密な比較にはなっていない。

平成28年度調査は、国民健康・栄養調査地区(10地区)から抽出した9地区の世帯の満20歳以上の世帯員とし、令和4年度調査は、佐賀県歯科医師会の地区割をもとに、地区の中から無作為で選定された20歯科医療機関を調査日と設定した任意の日に受診した満20歳以上の500名(各医療機関25名)を調査対象者とした。

(令和4年度調査について、県歯科医師会より報告498名、そのうち年齢、性別共に記入漏れが5名いたため、当課にて削除後集計を行った。このため被調査者数が493名となった。)

新型コロナウイルス感染拡大の背景があり、身体状況調査とともに口腔診査の実施が困難であったため調査方法を変更した。



# 1 被調査者数

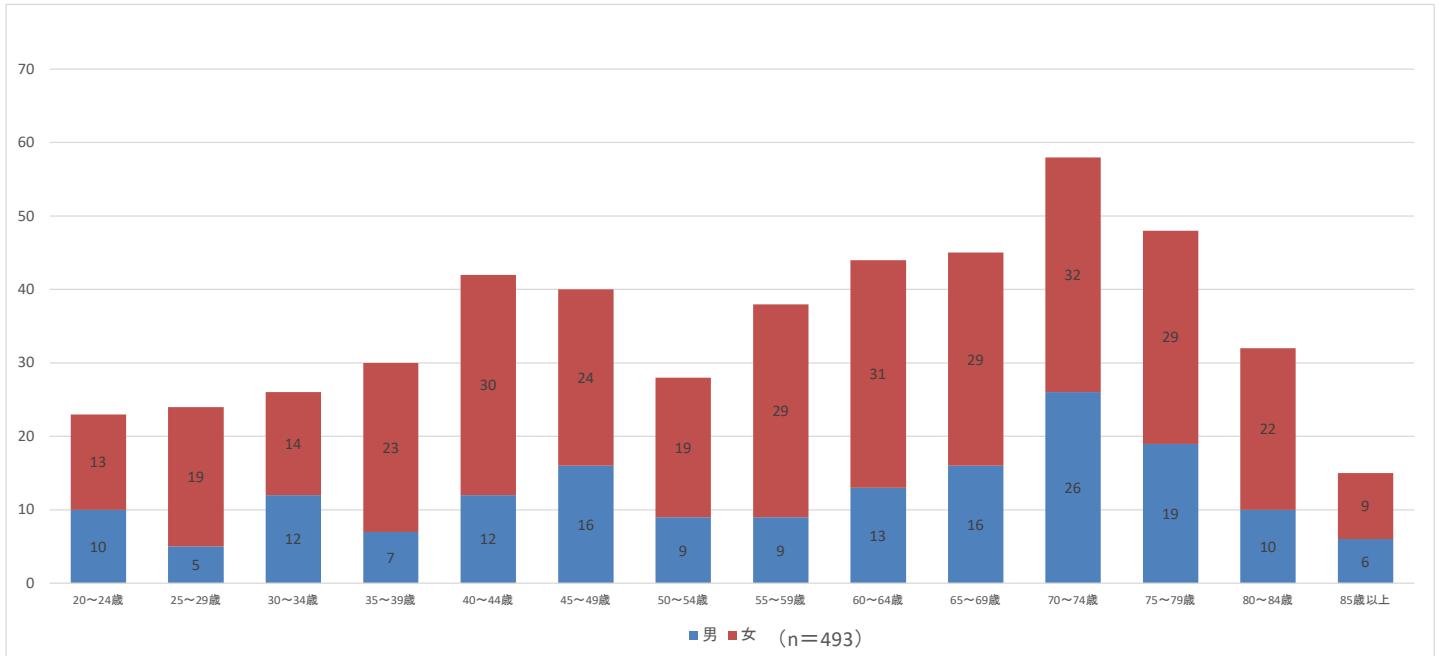
被調査者数は、493人(男170人、女323人)であった。

表1 被調査者数(人)

(人)

年代階級	佐賀中部 〔佐賀市・小城・多久・ 神埼地区〕		鳥栖 〔三養基・鳥栖地区〕		唐津 〔唐津東松浦〕		伊万里 〔伊万里・有田地区〕		杵藤 〔武雄・杵島地区 鹿島・藤津地区〕		総数		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
20～24歳	6	5	2	1	0	0	0	3	2	4	10	13	23
25～29歳	1	9	2	3	0	2	0	4	2	1	5	19	24
30～34歳	3	3	1	2	3	3	2	2	3	4	12	14	26
35～39歳	5	9	0	2	1	3	0	4	1	5	7	23	30
40～44歳	3	13	0	4	0	2	2	4	7	7	12	30	42
45～49歳	5	14	2	5	5	1	3	1	1	3	16	24	40
50～54歳	3	8	0	4	5	3	0	1	1	3	9	19	28
55～59歳	3	10	3	5	1	4	2	2	0	8	9	29	38
60～64歳	4	21	4	3	1	0	2	2	2	5	13	31	44
65～69歳	7	11	3	6	2	5	0	2	4	5	16	29	45
70～74歳	9	10	3	5	3	5	7	2	4	10	26	32	58
75～79歳	6	11	2	2	6	7	2	1	3	8	19	29	48
80～84歳	2	8	3	3	2	7	1	1	2	3	10	22	32
85歳以上	2	4	2	2	2	2	0	0	0	1	6	9	15
計	59	136	27	47	31	44	21	29	32	67	170	323	493

図1 被調査者数(人)



## 2 歯の状況

### (1)むし歯

むし歯を持つ者の割合は、25歳以上で90%以上と高く、特に40歳以上65歳未満、70歳以上75歳未満、80歳以上85歳未満では100%であった(表2、図2)。

前回調査と比較すると、30歳以上40歳未満では減少を示していたが、その他の年齢階級では増加していた(表3、図3)。

20歳以上35歳未満の1人平均むし歯数(DMFT指数)は、増加しているが、65歳以上において前回調査と比較すると、各年齢階級において緩やかに減少する傾向にあった(表4、図4)。

表2 むし歯を持つ者の数及び割合

年齢階級	被調査者数 (人)	人数(人)					割合(%)				
		むし歯の ない者	むし歯のある者			記入漏れ	むし歯の ない者	むし歯のある者			記入漏れ
			処置完了 の者	処置歯・未 処置歯を併 有する者	未処置歯 の者			処置完了 の者	処置歯・未 処置歯を併 有する者	未処置歯 の者	
20～24歳	23	6	11	4	2	0	26.1	47.8	17.4	8.7	0.0
25～29歳	24	2	14	7	1	0	8.3	58.3	29.2	4.2	0.0
30～34歳	26	2	16	8	0	0	7.7	61.5	30.8	0.0	0.0
35～39歳	30	1	15	14	0	0	3.3	50.0	46.7	0.0	0.0
40～44歳	42	0	31	11	0	0	0.0	73.8	26.2	0.0	0.0
45～49歳	40	0	24	16	0	0	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0
50～54歳	28	0	20	8	0	0	0.0	71.4	28.6	0.0	0.0
55～59歳	38	0	30	8	0	0	0.0	78.9	21.1	0.0	0.0
60～64歳	44	0	32	12	0	0	0.0	72.7	27.3	0.0	0.0
65～69歳	45	1	36	8	0	0	2.2	80.0	17.8	0.0	0.0
70～74歳	58	0	43	14	0	1	0.0	74.1	24.1	0.0	1.7
75～79歳	48	1	39	7	0	1	2.1	81.3	14.6	0.0	2.1
80～84歳	32	0	20	12	0	0	0.0	62.5	37.5	0.0	0.0
85歳以上	15	1	9	5	0	0	6.7	60.0	33.3	0.0	0.0

図2 むし歯を持つ者の割合(%)

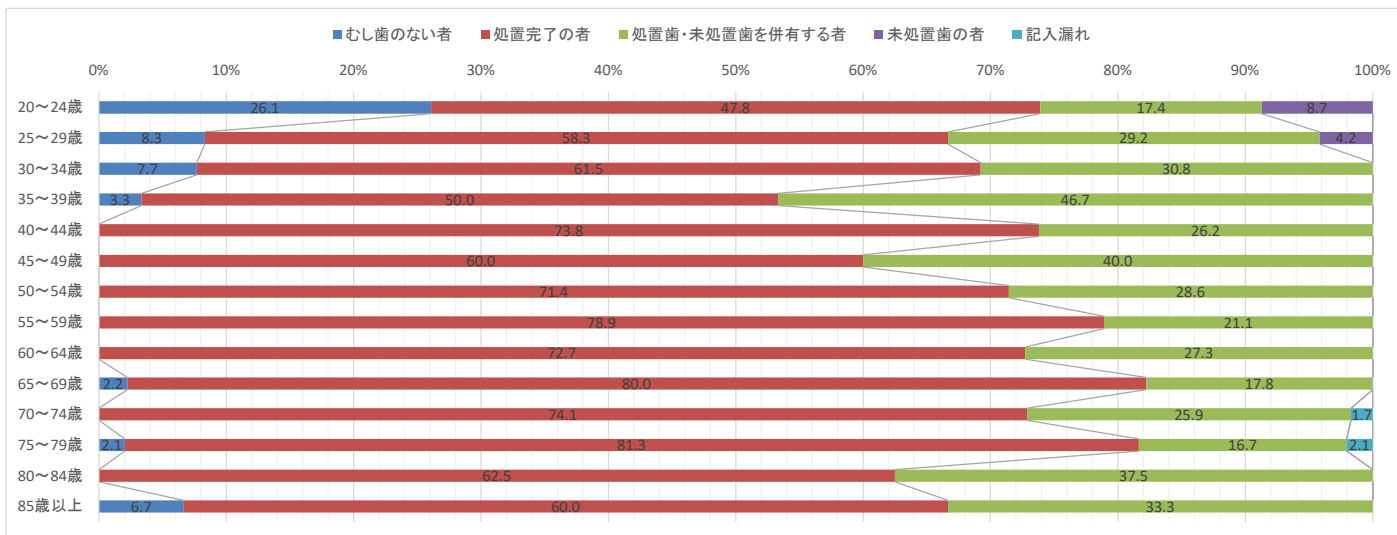


表3 むし歯を持つ者の割合の推移(%) 図3 むし歯を持つ者の割合の推移(%)

年齢階級	平成28年度 (2016年)	令和4年度 (2022年)
20～24歳	57.1	73.9
25～29歳	83.3	91.7
30～34歳	100.0	92.3
35～39歳	100.0	96.7
40～44歳	100.0	100.0
45～49歳	100.0	100.0
50～54歳	100.0	100.0
55～59歳	100.0	100.0
60～64歳	100.0	100.0
65～69歳	96.1	97.8
70～74歳	86.2	100.0
75～79歳	92.3	97.9
80～84歳	78.6	100.0
85歳以上	61.5	93.8

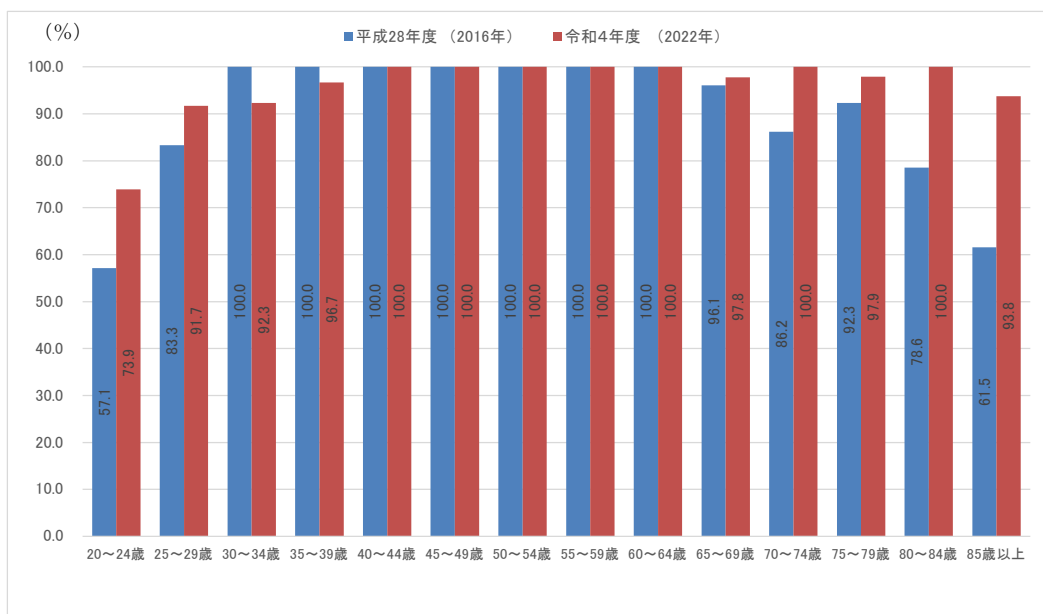
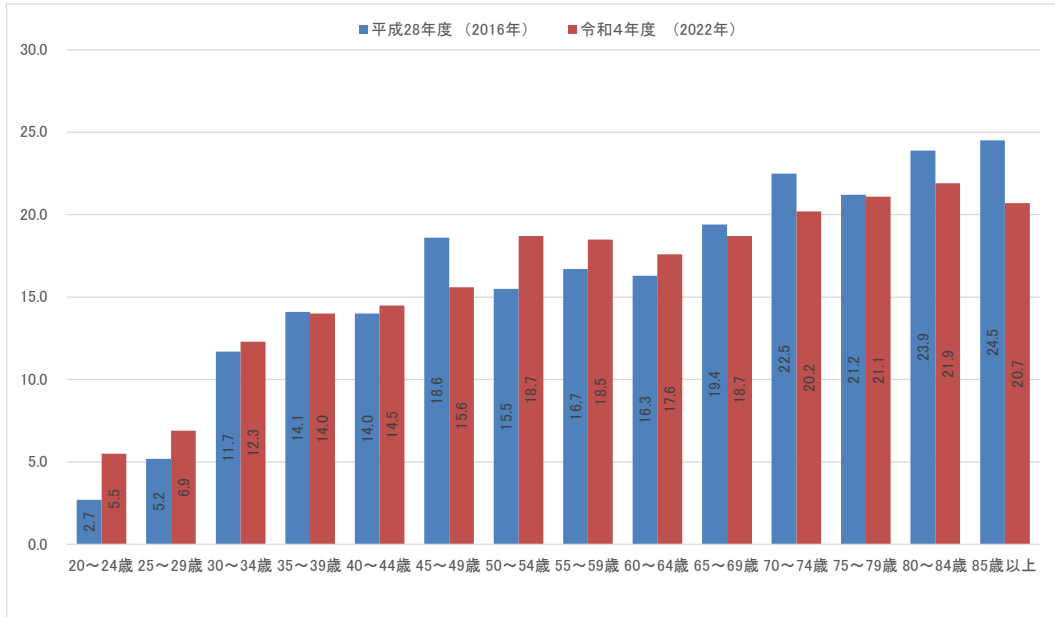


表4 1人平均むし歯数(DMFT指数)の推移(本) 図4 1人平均むし歯数(DMFT指数)の推移(本)

年齢階級	平成28年度 (2016年)	令和4年度 (2022年)
20～24歳	2.7	5.5
25～29歳	5.2	6.9
30～34歳	11.7	12.3
35～39歳	14.1	14.0
40～44歳	14.0	14.5
45～49歳	18.6	15.6
50～54歳	15.5	18.7
55～59歳	16.7	18.5
60～64歳	16.3	17.6
65～69歳	19.4	18.7
70～74歳	22.5	20.2
75～79歳	21.2	21.1
80～84歳	23.9	21.9
85歳以上	24.5	20.7





## (2) 喪失歯

25歳以上40歳未満で、喪失歯を有する者の割合(喪失歯所有者率)は、前回調査より増加した。65歳以上では、喪失歯所有者率、1人平均喪失歯共に改善している(表5～6、図5～6)。

表5 喪失歯所有者率の推移(%)

年齢階級	平成28年度 (2016年)	令和4年度 (2022年)
20～24歳	14.3	4.3
25～29歳	0.0	8.3
30～34歳	0.0	15.4
35～39歳	27.3	33.3
40～44歳	34.8	23.8
45～49歳	70.0	37.5
50～54歳	60.0	60.7
55～59歳	50.0	52.6
60～64歳	81.0	86.4
65～69歳	84.3	73.3
70～74歳	89.7	84.5
75～79歳	89.7	89.6
80～84歳	100.0	81.3
85歳以上	84.6	80.0

図5 喪失歯所有者率の推移

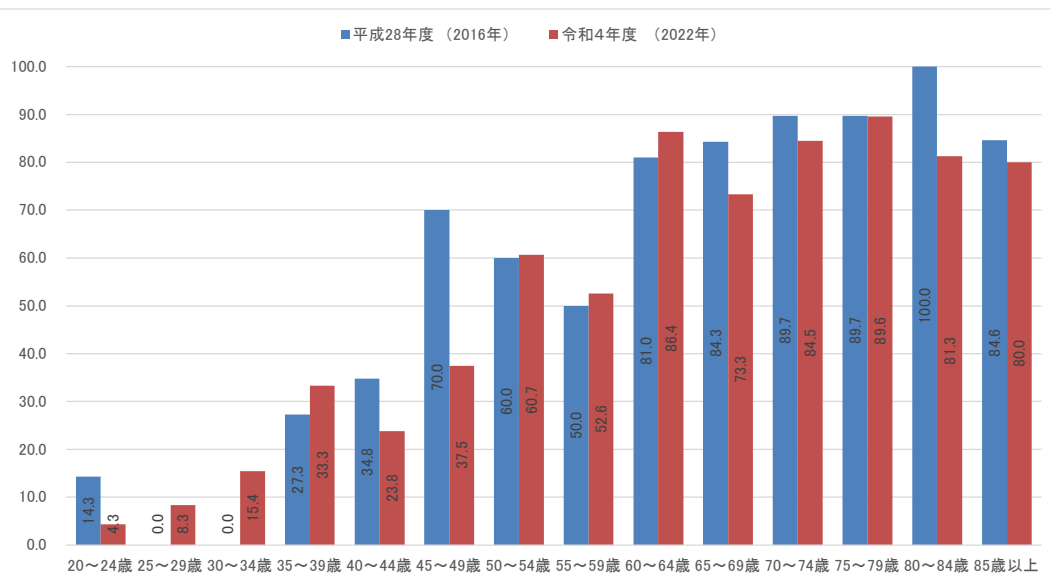
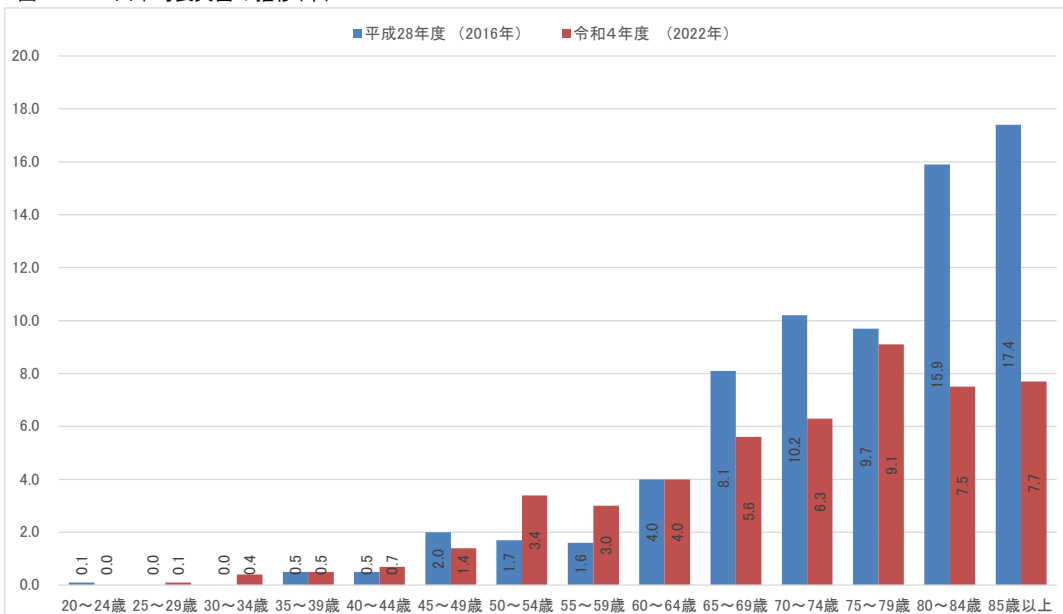


表6 1人平均喪失歯の推移(本)

年齢階級	平成28年度 (2016年)	令和4年度 (2022年)
20～24歳	0.1	0.0
25～29歳	0.0	0.1
30～34歳	0.0	0.4
35～39歳	0.5	0.5
40～44歳	0.5	0.7
45～49歳	2.0	1.4
50～54歳	1.7	3.4
55～59歳	1.6	3.0
60～64歳	4.0	4.0
65～69歳	8.1	5.6
70～74歳	10.2	6.3
75～79歳	9.7	9.1
80～84歳	15.9	7.5
85歳以上	17.4	7.7

図6 1人平均喪失歯の推移(本)



### (3) 現在歯(8020達成者など)

20歯以上の自分の歯を有する者は、60歳以上74歳未満、80歳以上が前回調査より増加した(表7、図7)。なお、8020達成者の割合(80歳まで20本以上の歯を有する者の割合)は、75歳以上85歳未満の8020達成者の割合から、53.8%と推計される(表8)。また、性別でみると1人平均現在歯数(表9、図8)は、80歳以上で男性の方が多い傾向にあった。

表7 20本以上の歯を有する者の割合の推移(%)

年齢階級	平成28年度 (2016年)	令和4年度 (2022年)
40～44歳	100.0	97.6
45～49歳	100.0	95.0
50～54歳	100.0	82.1
55～59歳	100.0	92.1
60～64歳	81.0	84.1
65～69歳	62.7	66.7
70～74歳	48.3	72.4
75～79歳	59.0	50.0
80～84歳	21.4	59.4
85歳以上	38.5	60.0

図7 20本以上の歯を有する者の割合の推移(%)

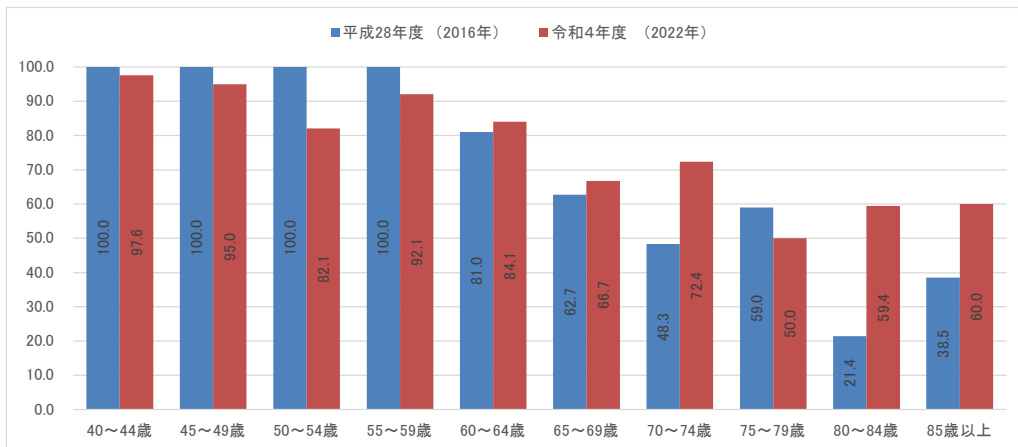


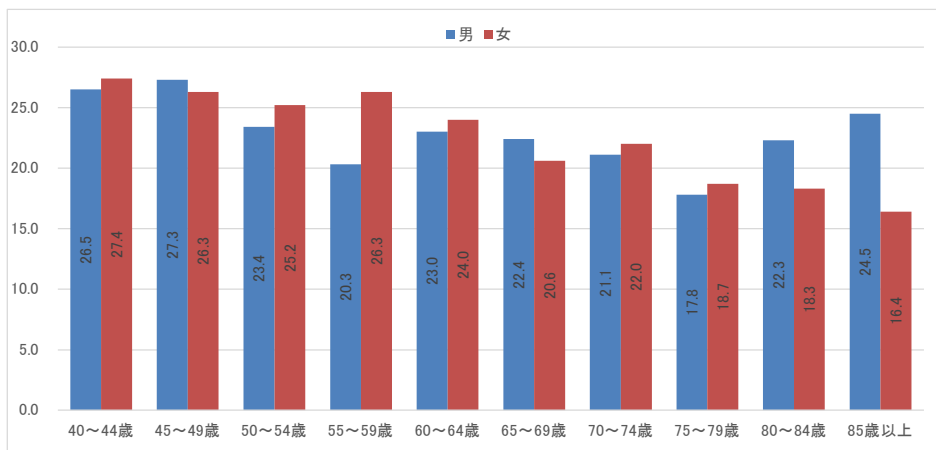
表8 20本以上の歯を有する者の数及び割合

年齢階級	被調査者数 (人)	人数(人)			割合(%)		
		男	女	総数	男	女	総数
40～44歳	42	11	30	41	91.7	100.0	97.6
45～49歳	40	16	22	38	100.0	91.7	95.0
50～54歳	28	7	16	23	43.8	84.2	82.1
55～59歳	38	6	29	35	66.7	100.0	92.1
60～64歳	44	11	26	37	84.6	83.9	84.1
65～69歳	45	11	19	30	68.8	59.4	66.7
70～74歳	58	17	25	42	65.4	78.1	72.4
75～79歳	48	9	15	24	47.4	51.7	50.0
80～84歳	32	8	11	19	80.0	50.0	59.4
85歳以上	15	6	3	9	100.0	33.3	60.0

表9 1人平均現在歯数(本)

年齢階級	男	女	総数
40～44歳	26.5	27.4	27.1
45～49歳	27.3	26.3	26.7
50～54歳	23.4	25.2	24.6
55～59歳	20.3	26.3	24.9
60～64歳	23.0	24.0	23.7
65～69歳	22.4	20.6	21.2
70～74歳	21.1	22.0	21.6
75～79歳	17.8	18.7	18.3
80～84歳	22.3	18.3	19.6
85歳以上	24.5	16.4	19.7

図8 1人平均現在歯数(本)



#### (4)その他の歯の状況

##### ア 1人平均健全歯数

1人平均健全歯数は、総数で11.0本であった。  
 総数で見ると、男性11.4本、女性10.7本となっており、性別では大きな差はなかった(表10)。

表10 1人平均健全歯数(本)

年齢階級	男	女	総数
20～24歳	20.9	24.1	22.7
25～29歳	20.8	21.2	21.1
30～34歳	17.5	14.8	16.0
35～39歳	12.6	15.2	14.6
40～44歳	12.8	13.6	13.4
45～49歳	14.1	11.4	12.5
50～54歳	7.1	10.4	9.3
55～59歳	10.6	9.1	9.4
60～64歳	10.4	10.0	10.1
65～69歳	10.5	6.9	8.2
70～74歳	8.8	7.1	7.9
75～79歳	6.3	6.6	6.5
80～84歳	6.7	4.4	5.1
85歳以上	12.7	2.7	6.7
総数	11.4	10.7	11.0

##### イ 1人平均処置歯数

1人平均処置歯数は、総数で12.2本であった。  
 総数で見ると男性が11.5本、女性12.5本と女性が1.0本多い。男女を比較してみると、55歳以上60歳未満で差が最も大きく、女性の方が7.5本多かった(表11)。

表11 1人平均処置歯数(本)

年齢階級	男	女	総数
20～24歳	6.8	2.5	4.4
25～29歳	6.4	5.5	5.7
30～34歳	9.3	11.0	10.2
35～39歳	12.4	11.7	11.9
40～44歳	12.3	13.3	13.0
45～49歳	11.5	13.3	12.6
50～54歳	15.6	14.4	14.8
55～59歳	9.3	16.8	15.1
60～64歳	12.1	13.3	12.9
65～69歳	11.6	13.1	12.6
70～74歳	12.7	14.4	13.6
75～79歳	11.3	12.3	11.9
80～84歳	14.6	13.0	13.5
85歳以上	10.8	12.8	12.0
総数	11.5	12.5	12.2

### ウ 1人平均未処置歯数

1人平均未処置歯数は、総数で0.8本であった。  
性別で見ると、男性0.9本、女性0.8本となっており、差は小さかった(表12)。

表12 1人平均未処置歯数(本)

年齢階級	男	女	総数
20～24歳	1.6	0.7	1.1
25～29歳	1.0	1.1	1.1
30～34歳	0.7	2.5	1.7
35～39歳	3.0	1.2	1.6
40～44歳	1.4	0.5	0.8
45～49歳	1.6	1.6	1.6
50～54歳	0.8	0.5	0.6
55～59歳	0.4	0.4	0.4
60～64歳	0.5	0.7	0.6
65～69歳	0.3	0.6	0.4
70～74歳	0.4	0.5	0.5
75～79歳	0.3	0.4	0.4
80～84歳	1.0	0.9	0.9
85歳以上	1.0	1.0	1.0
総数	0.9	0.8	0.8

### 3 歯肉の状況

4mm以上の歯周ポケットを持つ者の割合は、高齢になるにつれ増加する傾向があり(表13、図9)、推移を見ると今回調査ではほぼすべての年代で前回調査と比較し、高値を示した(表14、図10)。歯肉出血を有する者の割合は、45歳以上55歳未満で60%を超え、80歳以上では70%を超えている(表15、図11)。

表13 歯周ポケットの保有者の割合、年齢階級別(%)

年齢階級	4mm未満	歯周ポケット(4mm以上)のある者		対象歯のない者	記入漏れ
		総数	4mm以上 6mm未満		
20～24歳	78.3	21.7	21.7	0.0	0.0
25～29歳	70.8	29.2	25.0	4.2	0.0
30～34歳	61.5	38.5	34.6	3.8	0.0
35～39歳	46.7	53.3	46.7	6.7	0.0
40～44歳	66.7	31.0	26.2	4.8	2.4
45～49歳	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
50～54歳	50.0	50.0	42.9	7.1	0.0
55～59歳	39.5	57.9	42.1	15.8	2.6
60～64歳	25.0	75.0	59.1	15.9	0.0
65～69歳	26.7	66.7	51.1	15.6	4.4
70～74歳	34.5	58.6	44.8	13.8	5.2
75～79歳	31.3	62.5	45.8	16.7	6.3
80～84歳	25.0	68.8	37.5	31.3	6.3
85歳以上	20.0	73.3	60.0	13.3	6.7

図9 歯周ポケットの保有者の割合

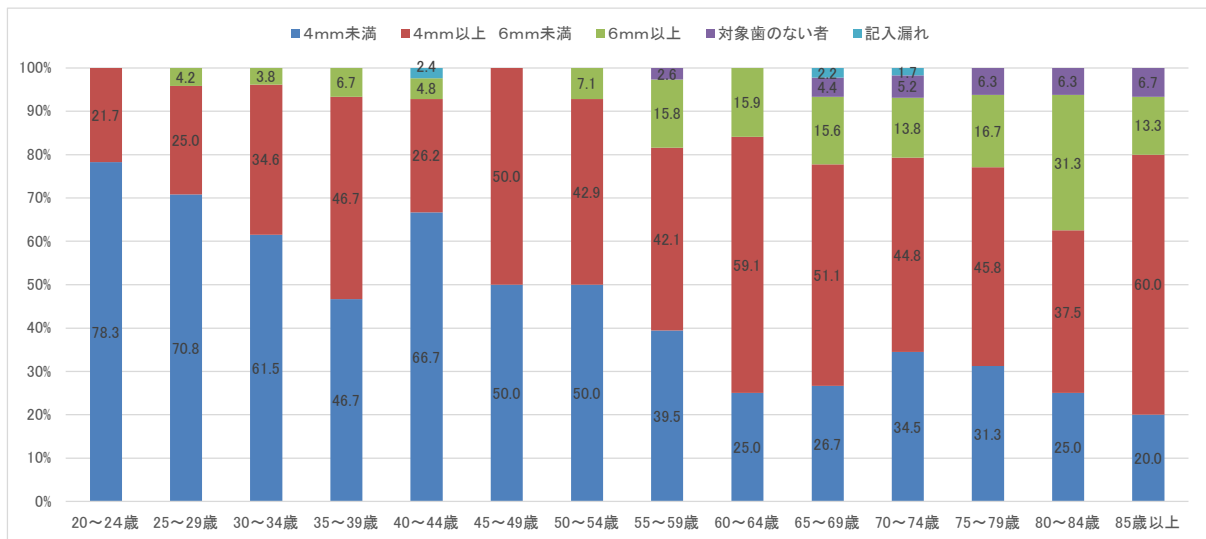


表14  
4mm以上の歯周ポケットを有する者の割合の推移(%) 図10

年齢階級	平成28年度 (2016年)	令和4年度 (2022年)
20～24歳	14.3	21.7
25～29歳	33.3	29.2
30～34歳	36.4	38.5
35～39歳	36.4	53.3
40～44歳	30.4	31.0
45～49歳	30.0	50.0
50～54歳	53.3	50.0
55～59歳	63.6	57.9
60～64歳	45.2	75.0
65～69歳	52.9	66.7
70～74歳	27.6	58.6
75～79歳	48.7	62.5
80～84歳	28.6	68.8
85歳以上	30.8	73.3

4mm以上の歯周ポケットを有する者の割合の推移(%)

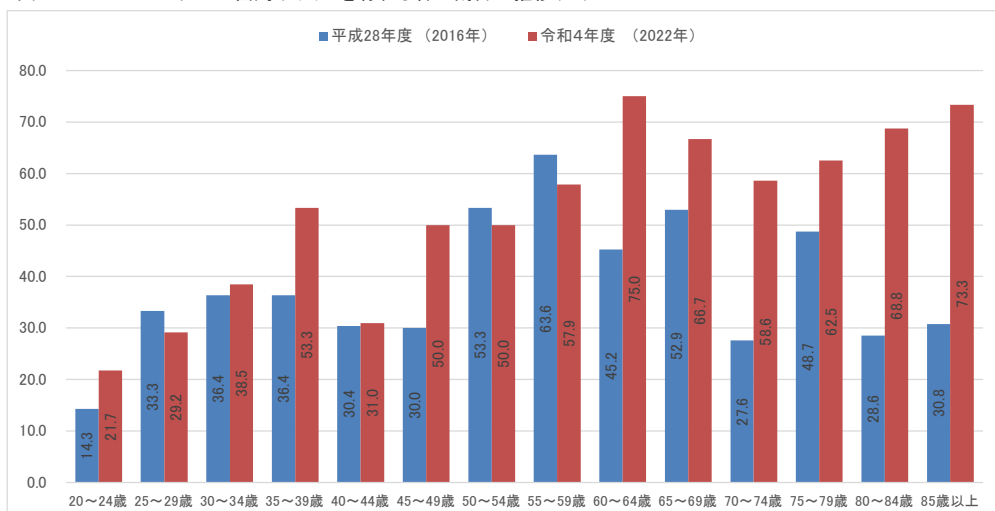
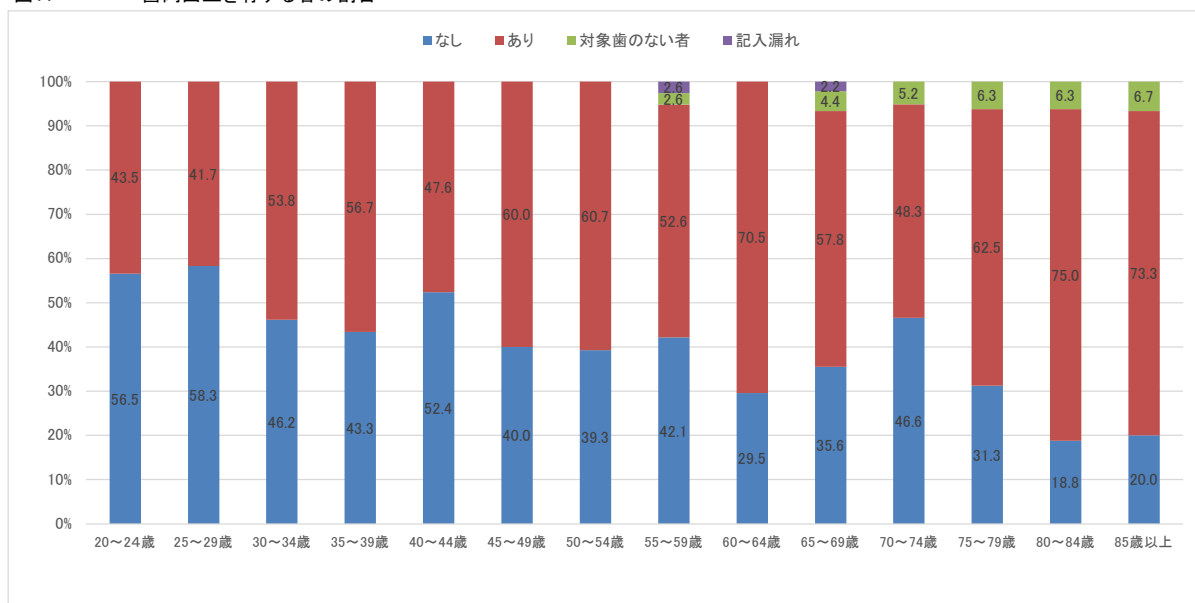


表15 歯肉出血を有する者の割合(%)

年齢階級	歯肉出血			
	なし	あり	対象歯のない者	記入漏れ
20～24歳	56.5	43.5	0.0	0.0
25～29歳	58.3	41.7	0.0	0.0
30～34歳	46.2	53.8	0.0	0.0
35～39歳	43.3	56.7	0.0	0.0
40～44歳	52.4	47.6	0.0	0.0
45～49歳	40.0	60.0	0.0	0.0
50～54歳	39.3	60.7	0.0	0.0
55～59歳	42.1	52.6	2.6	2.6
60～64歳	29.5	70.5	0.0	0.0
65～69歳	35.6	57.8	4.4	2.2
70～74歳	46.6	48.3	5.2	0.0
75～79歳	31.3	62.5	6.3	0.0
80～84歳	18.8	75.0	6.3	0.0
85歳以上	20.0	73.3	6.7	0.0

図11 歯肉出血を有する者の割合



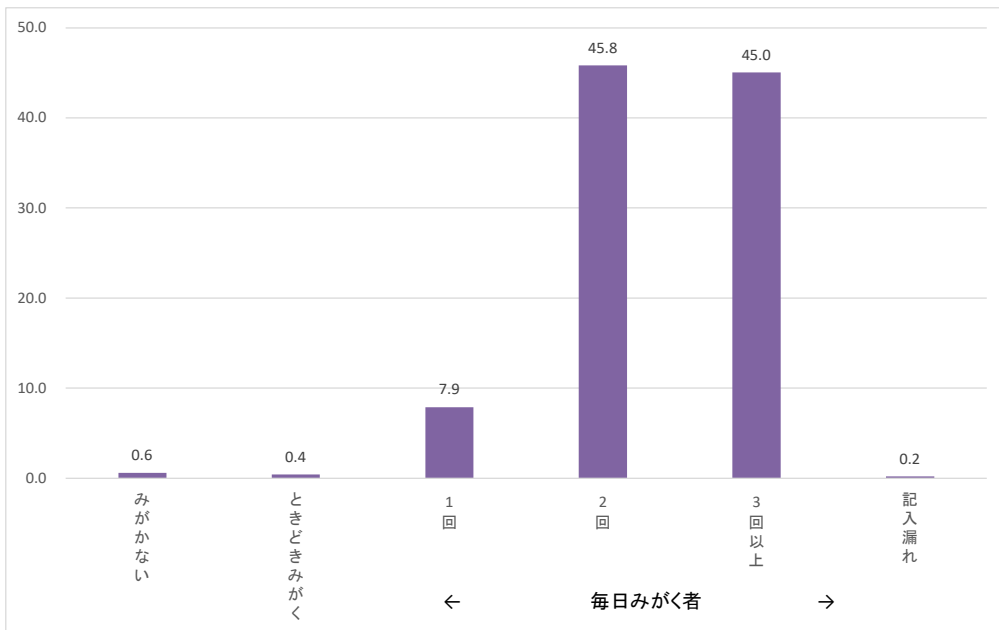
#### 4 歯をみがく頻度

毎日歯をみがく者の割合は98.8%であった。また、毎日2回以上歯をみがく者の割合は90.9%であった(表16、図12)。

表16 歯ブラシの使用状況(%)

	みがかない	ときどきみがく	毎日みがく					(再掲) 毎日 2回以上
			毎日(総数)	1回	2回	3回以上	記入漏れ	
令和4年度 (2022年)	0.6	0.4	98.8	7.9	45.8	45.0	0.2	90.9

図12 歯ブラシの使用状況(%)



## 5 歯や口の状態

歯と口の状態について気になるところがないと回答した者は全体の50.9%であった。85歳以上に関しては、73.3%と高値を示した。

「歯が痛い、しみる」または「歯ぐきが痛い、はれている、出血がある」と回答した者の割合は25歳以上70歳未満の年齢階級で高く、「噛めないものがある」と回答した者の割合は55歳の年齢階級で10%を超え、高齢になるに従って、高くなる傾向だった(表17、図13)。

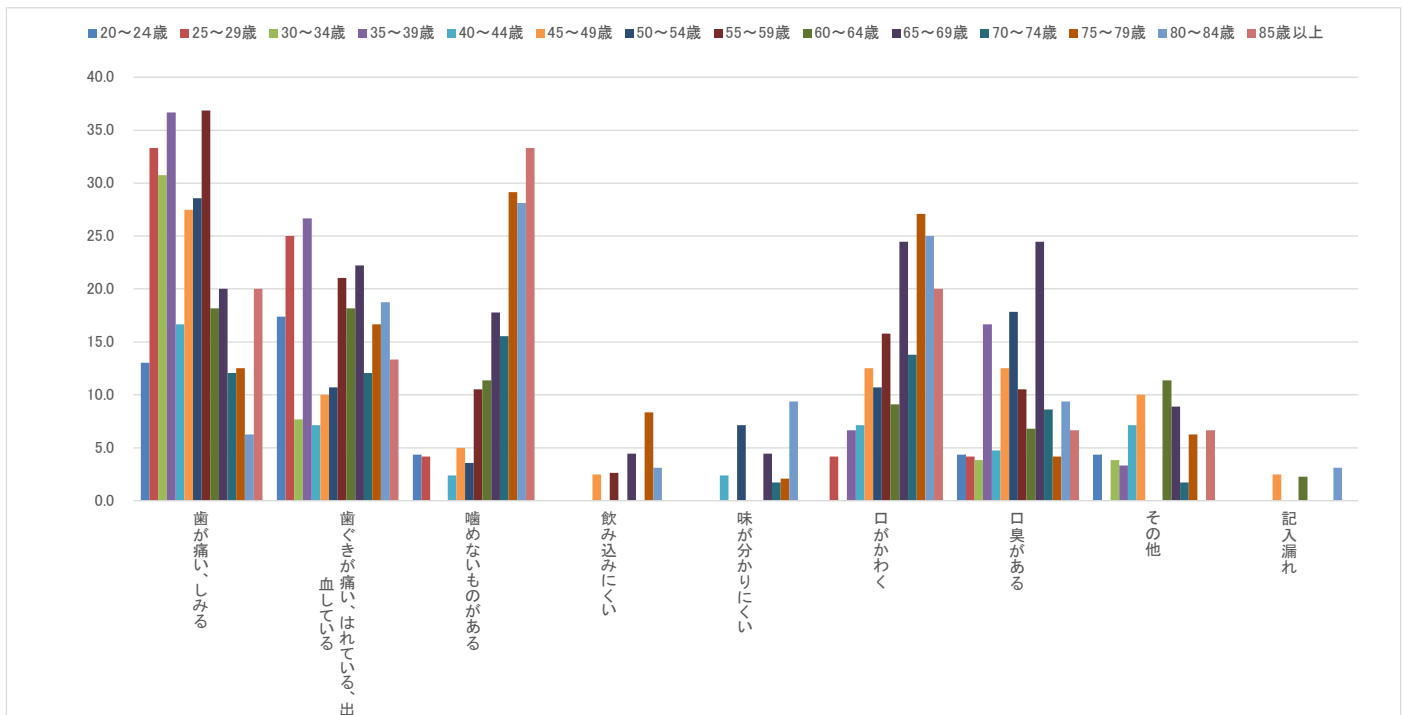
表17 歯や口の状態(%)

年齢階級	被調査者数	歯や口の状態について気になるところ										記入漏れ
		ない	総数 (注2)	ある (注1)								
				歯が痛い、 しみる	歯ぐきが痛 い、はれて いる、出血 している	噛めないも のがある	飲み込み にくい	味が分か りにくい	口がかわ く	口臭があ る	その他	
総数	493	50.9	81.5	21.3	16.0	12.2	1.8	2.0	13.4	9.9	4.9	0.6
20～24歳	23	34.8	43.5	13.0	17.4	4.3	0.0	0.0	0.0	4.3	4.3	0.0
25～29歳	24	58.3	70.8	33.3	25.0	4.2	0.0	0.0	4.2	4.2	0.0	0.0
30～34歳	26	42.3	46.2	30.8	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	3.8	0.0
35～39歳	30	60.0	90.0	36.7	26.7	0.0	0.0	0.0	6.7	16.7	3.3	0.0
40～44歳	42	38.1	47.6	16.7	7.1	2.4	0.0	2.4	7.1	4.8	7.1	0.0
45～49歳	40	52.5	80.0	27.5	10.0	5.0	2.5	0.0	12.5	12.5	10.0	2.5
50～54歳	28	46.4	78.6	28.6	10.7	3.6	0.0	7.1	10.7	17.9	0.0	0.0
55～59歳	38	55.3	97.4	36.8	21.1	10.5	2.6	0.0	15.8	10.5	0.0	0.0
60～64歳	44	54.5	75.0	18.2	18.2	11.4	0.0	0.0	9.1	6.8	11.4	2.3
65～69歳	45	64.4	126.7	20.0	22.2	17.8	4.4	4.4	24.4	24.4	8.9	0.0
70～74歳	58	37.9	65.5	12.1	12.1	15.5	0.0	1.7	13.8	8.6	1.7	0.0
75～79歳	48	60.4	106.3	12.5	16.7	29.2	8.3	2.1	27.1	4.2	6.3	0.0
80～84歳	32	43.8	96.9	6.3	18.8	28.1	3.1	9.4	21.9	9.4	0.0	3.1
85歳以上	15	73.3	100.0	20.0	13.3	33.3	0.0	0.0	20.0	6.7	6.7	0.0

注1)複数回答可

注2)いずれか1つでもある者

図13 歯や口の状態(%)





## 6 歯や口の清掃状況

デンタルフロスや歯間ブラシを用いた歯間部清掃を行っている者は、男性50.6%、女性73.7%、舌清掃を行っているものは男性22.4%、女性23.8%だった。性別でみるとすべての年代で女性の方が歯間部清掃を行っている者の割合が高かった。(表18、図14～15)

表18 歯や口の清掃状況(%)

	年齢階級	被調査者数(人)	歯ブラシを用いた歯みがきに加えておこなう歯や口の清掃					
			おこなっている(注1)			おこなっていない	記入漏れ	
			総数(注2)	デンタルフロスや歯間ブラシを使った歯と歯の間の清掃	舌の清掃			その他
男	総数	170	75.9	50.6	22.4	2.9	36.5	1.2
	20～24歳	10	80.0	30.0	50.0	0.0	30.0	0.0
	25～29歳	5	80.0	40.0	20.0	20.0	40.0	0.0
	30～34歳	12	75.0	41.7	33.3	0.0	41.7	0.0
	35～39歳	7	85.7	57.1	28.6	0.0	42.9	0.0
	40～44歳	12	83.3	66.7	16.7	0.0	25.0	0.0
	45～49歳	16	68.8	37.5	31.3	0.0	37.5	0.0
	50～54歳	9	55.6	33.3	22.2	0.0	66.7	0.0
	55～59歳	9	44.4	22.2	22.2	0.0	55.6	0.0
	60～64歳	13	84.6	61.5	23.1	0.0	23.1	7.7
	65～69歳	16	87.5	62.5	18.8	6.3	37.5	0.0
	70～74歳	26	84.6	57.7	19.2	7.7	26.9	0.0
	75～79歳	19	68.4	63.2	5.3	0.0	36.8	0.0
	80～84歳	10	90.0	60.0	20.0	10.0	30.0	0.0
85歳以上	6	50.0	33.3	16.7	0.0	50.0	16.7	
女	総数	323	101.5	73.7	23.8	4.0	17.6	0.0
	20～24歳	13	76.9	46.2	30.8	0.0	30.8	0.0
	25～29歳	19	100.0	68.4	26.3	5.3	21.1	0.0
	30～34歳	14	92.9	64.3	28.6	0.0	7.1	0.0
	35～39歳	23	104.3	69.6	30.4	4.3	17.4	0.0
	40～44歳	30	103.3	76.7	20.0	6.7	16.7	0.0
	45～49歳	24	112.5	75.0	33.3	4.2	16.7	0.0
	50～54歳	19	110.5	78.9	31.6	0.0	15.8	0.0
	55～59歳	29	103.4	82.8	13.8	6.9	13.8	0.0
	60～64歳	31	109.7	83.9	22.6	3.2	16.1	0.0
	65～69歳	29	106.9	82.8	24.1	0.0	13.8	0.0
	70～74歳	32	100.0	75.0	21.9	3.1	15.6	0.0
	75～79歳	29	103.4	79.3	17.2	6.9	17.2	0.0
	80～84歳	22	90.9	63.6	22.7	4.5	22.7	0.0
85歳以上	9	66.7	33.3	22.2	11.1	44.4	0.0	

注1)複数回答可

注2)いずれか1つでもある者

図14 デンタルフロスや歯間ブラシを使った、歯と歯の間の清掃を行っているものの割合(%)

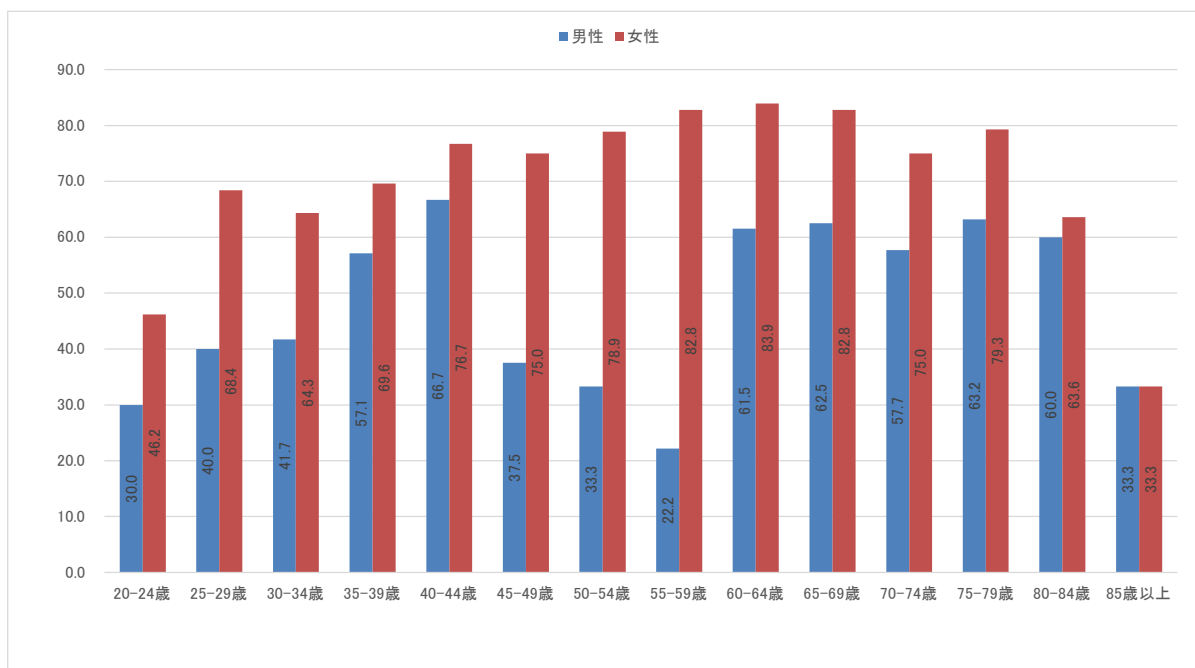
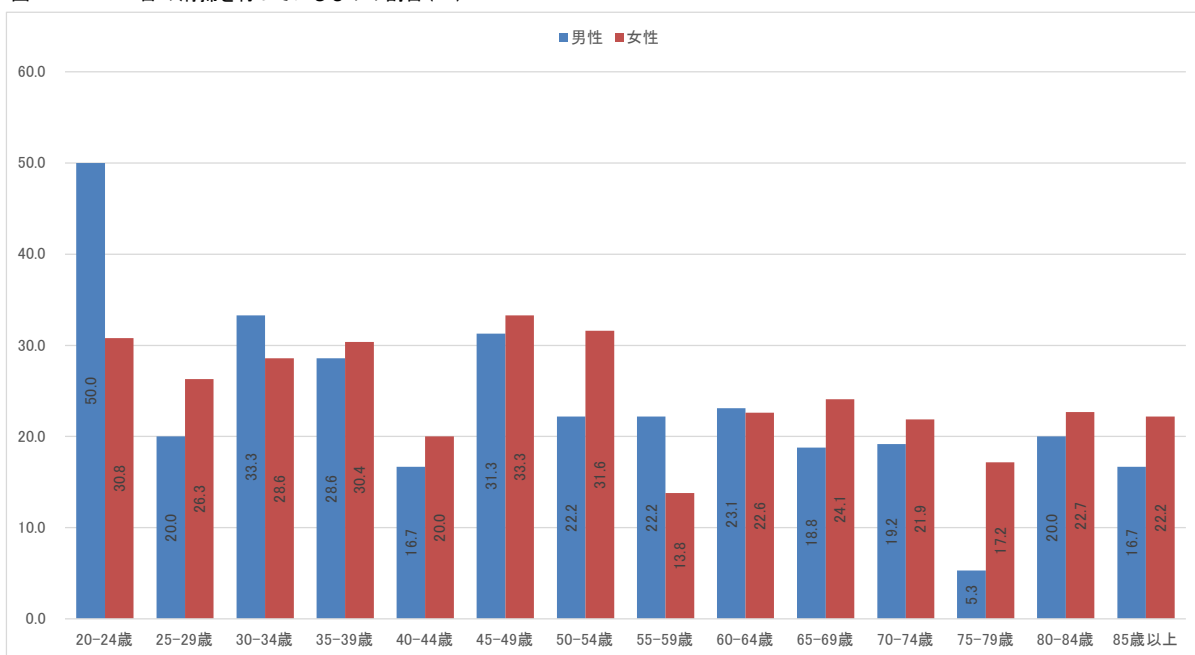


図15 舌の清掃を行っているものの割合(%)



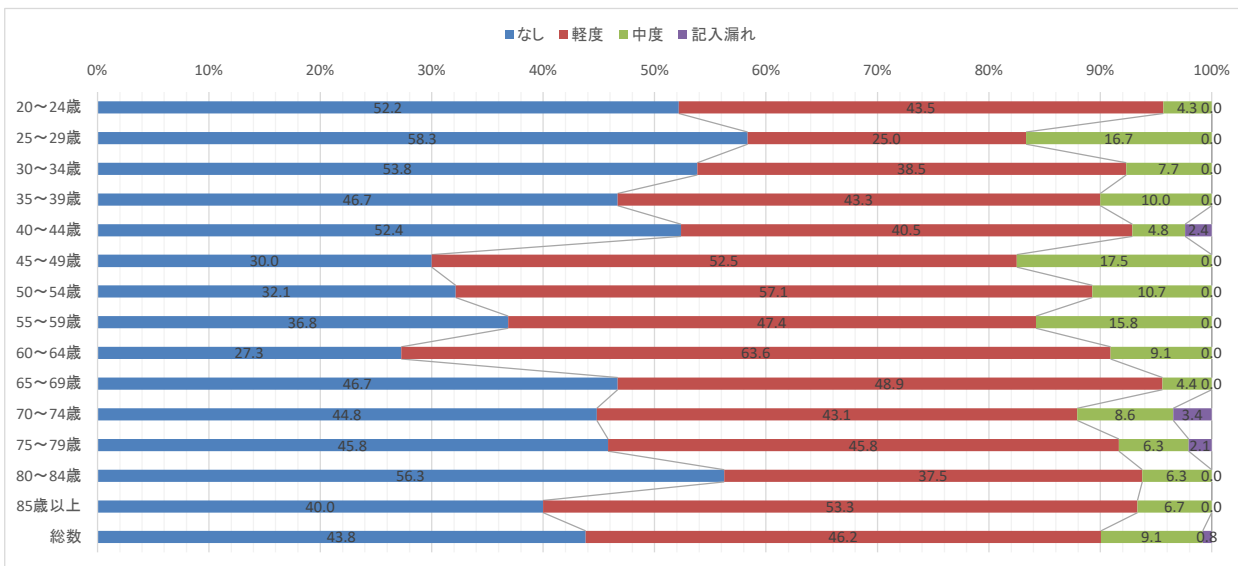
## 7 歯石の付着

歯石のない者は総数で43.8%であった(表19、図16)。

表19 歯石の付着(%)

年齢階級	歯石の付着			
	なし	軽度	中度	記入漏れ
20～24歳	52.2	43.5	4.3	0.0
25～29歳	58.3	25.0	16.7	0.0
30～34歳	53.8	38.5	7.7	0.0
35～39歳	46.7	43.3	10.0	0.0
40～44歳	52.4	40.5	4.8	2.4
45～49歳	30.0	52.5	17.5	0.0
50～54歳	32.1	57.1	10.7	0.0
55～59歳	36.8	47.4	15.8	0.0
60～64歳	27.3	63.6	9.1	0.0
65～69歳	46.7	48.9	4.4	0.0
70～74歳	44.8	43.1	8.6	3.4
75～79歳	45.8	45.8	6.3	2.1
80～84歳	56.3	37.5	6.3	0.0
85歳以上	40.0	53.3	6.7	0.0
総数	43.8	46.2	9.1	0.8

図16 歯石の付着



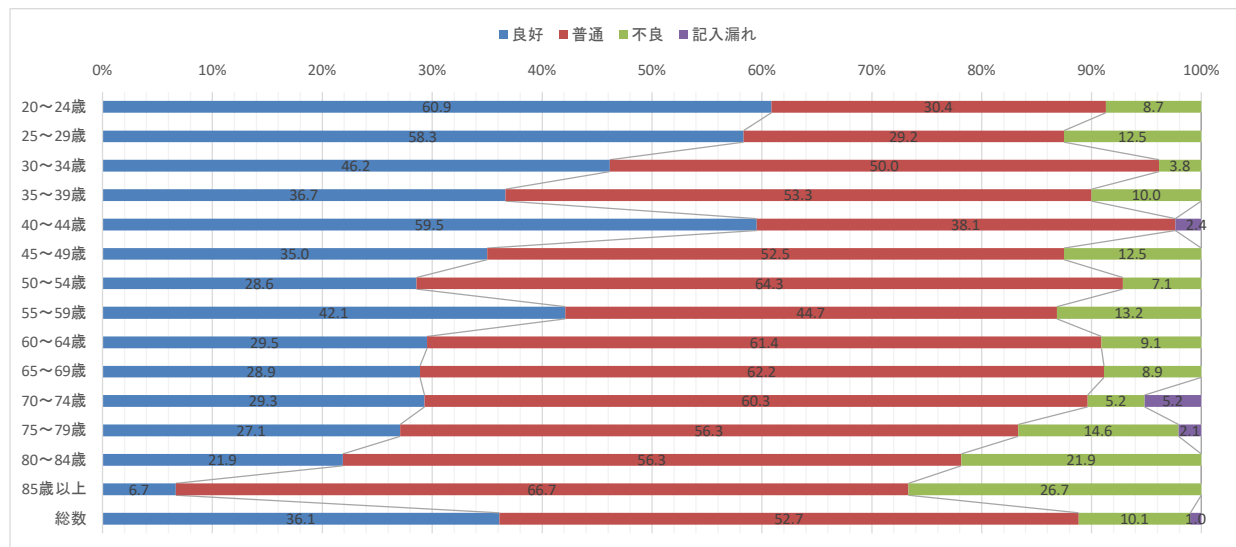
## 8 口腔清掃状態

口腔清掃状態が普通の者は52.7%、良好の者は36.1%、不良の者は10.1%であった。年齢階級別にみると良好の者は20歳以上25歳未満が60.9%と最も高く、年齢と共に低下する傾向が見られた(表20、図17)。

表20 口腔清掃状態(%)

年齢階級	口腔清掃状態			
	良好	普通	不良	記入漏れ
20～24歳	60.9	30.4	8.7	0.0
25～29歳	58.3	29.2	12.5	0.0
30～34歳	46.2	50.0	3.8	0.0
35～39歳	36.7	53.3	10.0	0.0
40～44歳	59.5	38.1	0.0	2.4
45～49歳	35.0	52.5	12.5	0.0
50～54歳	28.6	64.3	7.1	0.0
55～59歳	42.1	44.7	13.2	0.0
60～64歳	29.5	61.4	9.1	0.0
65～69歳	28.9	62.2	8.9	0.0
70～74歳	29.3	60.3	5.2	5.2
75～79歳	27.1	56.3	14.6	2.1
80～84歳	21.9	56.3	21.9	0.0
85歳以上	6.7	66.7	26.7	0.0
総数	36.1	52.7	10.1	1.0

図17 口腔清掃状態



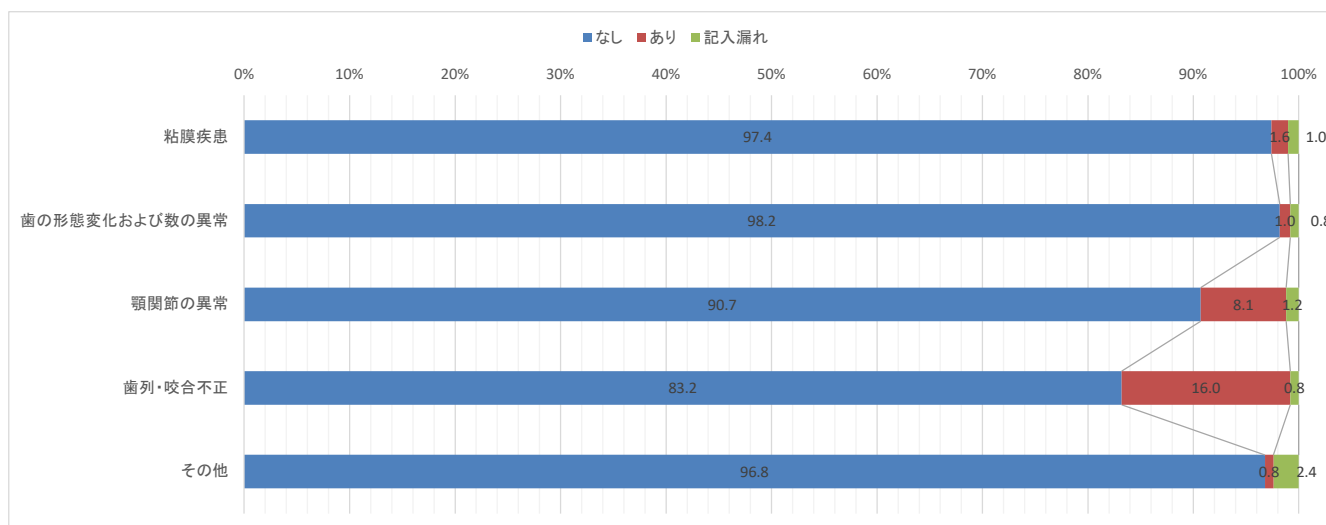
## 9 その他の所見

顎関節の異常がある者が8.1%、歯列・咬合不正がある者が16.0%であった。

表21 その他の所見(%)

	粘膜疾患	歯の形態変化 および 数の異常	顎関節の 異常	歯列・咬合 不正	その他
なし	97.4	98.2	90.7	83.2	96.8
あり	1.6	1.0	8.1	16.0	0.8
記入漏れ	1.0	0.8	1.2	0.8	2.4

図18 その他の所見



## 10 算出方法

本報告書に示した主な数値等は次の方法により算出した。

むし歯有病者率(%)	=	$\frac{\text{むし歯のある者の数}}{\text{被検査者数(無歯顎者を除く)}} \times 100$
※むし歯のある者の数:未処置歯(D)、喪失歯(M)、処置歯(F)のいずれか1本以上有する無歯顎以外の数		
1人平均現在歯数(本)	=	$\frac{\text{現在歯総数}}{\text{被検査者数}}$
※現在歯:健全歯、未処置歯、処置歯		
1人平均健全歯数(本)	=	$\frac{\text{健全歯数}}{\text{被検査者数}}$
1人平均処置歯数(本)	=	$\frac{\text{処置歯総数}}{\text{被検査者数}}$
1人平均未処置歯数(本)	=	$\frac{\text{未処置歯総数}}{\text{被検査者数}}$
1人平均むし歯数(本)	=	$\frac{\text{むし歯総数}}{\text{被検査者数}}$
※むし歯の総数:未処置歯(D)、喪失歯(M)、処置歯(F)の合計総数		
1人平均喪失歯数(本)	=	$\frac{\text{喪失歯総数}}{\text{被検査者数}}$
歯周病有病者率(%)	=	$\frac{\text{歯周ポケット4mm以上の者}}{\text{被検査者数(無歯顎者を除く)}}$



令和5年3月

令和4年度県民歯科疾患実体調査報告書

佐賀県 健康福祉政策課

〒840-8570 佐賀市城内1丁目1番59号

(電話) 0952-25-7075

